

17

令和4年3月

岩手大学教職大学院 NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

国立大学法人
岩手大学「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます！<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

問合先：岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600

E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

教育実践研究発表会

M2 大村 岳

[学卒院生、授業力開発プログラム]

発表会を終えてホッとした気持ちと共に、この大学院での生活が終わってしまうことへの寂しさも感じています。思い返せば、この2年間は常に予定が変化する大変な日々でしたが、大学の先生方を始め、連携協力校の先生方のご協力により、研究を進めることができました。学校種や教科が異なることから発表内容の吟味が必要でしたが、同時に研究を見直すことにも繋がりました。当日は、同期の研究内容に強く興味を惹かれると共に、学校種や教科ならではの視点や考え方に触れることができ、大きな学びとなりました。



教育実践研究発表会を2月4日に、中間発表会を1月21日に本学の北桐ホールで開催しました。感染症対策により急遽外部からの参加は取り止める形での発表会になりましたが、M2院生は2年間、M1院生は1年間の研究の成果を披露しました。

理論と
実践の
融合。

本大学院ではこの春に第5期修了生(学卒院生、現職院生計16名)を送り出します。学校や教育機関での活躍が期待されます。

大学院後期の授業の中から、全員必修の専攻共通科目「ICT活用教育の実践と課題」について紹介します。



教育実践研究・中間発表会

M1 黒淵 大介 [現職院生、授業力開発プログラム]

「自分が暮らすふるさとに誇りを持ち、語れる人間になってほしい」という思いから、「中学校国語科における表現力を育成するための地域教材の開発」をテーマに研究を進めています。毎月行われるゼミは、現場では経験することのできない貴重な学びです。一つ一つの教材と向き合い、教材の持つ価値について考えることができました。中間発表会では、自分の研究と来年度に向けての研究デザインについて、多くの助言をいただきました。院生同士でも互いの研究について学び合うことができました。「岩手だからこそできる、やるべき教育」の実現に向け、今後も研究に励んでいきます。

教職大学院を修了して

M2 所 慎一郎

[現職院生、学校マネジメント力開発プログラム]

教職大学院では、専門実習、模擬授業、事例研究等、実践的な教育内容を学び、充実した日々を過ごすことができました。リフレクションでは、異校種の先生方との協議を通して、自分の考えが広く深くなっていくことを実感しました。また、大学の授業で学んだ理論と自己の実践を結び付けていく中で成果や課題が明らかになると共に、今後の活かし方を創造するきっかけとなりました。2年間、充実した日々を過ごすことができたことに感謝しながら、教職大学院での学びを学校現場で活かしていきたいと思います。

教職大学院の日々

M1 伊藤 玲杏

[学卒院生、授業力開発プログラム]

GIGAスクール構想により1人1台端末が実現した今、教師にもICT活用スキルが必須になります。ロイロノートを活用した授業や動画教材の作成、プログラミング言語に触れてみる等、実践に繋がる活動を通してICT活用教育への理解を深めました。受講してみて、児童生徒がICTを扱う上で、スキルだけでなく情報モラルといった態度面の育成も欠かせないということを実感しました。活用の幅を広げるために授業実践にて活用していきたいです。

教育学研究科教員 メッセージ

社会は、急速に国際化が進展し、多様性が増しています。さらに、急激な高度情報化や技術革新が生活に大きな変化をもたらしています。このような急激な社会や生活の変化は、学校教育にも様々な影響を与えています。これからの教員には、伝統的な学校教育のよさを理解するだけではなく、学校教育の変化を捉え、新たな教育を創造する資質や能力が求められています。そのような資質や能力は、ただ単に専門書を読んだり、学校で経験を積んだりするだけでは容易に身に付けられるものではありません。そのような資質や能力を得るためには、専門書で得た知識や経験から得た知見を土台として、じっくりと「考えること」が重要です。教職大学院の2年間は、理論と実践を融合し、教育についてじっくりと考える機会となり、価値ある2年間を生活することができます。新たな教育を創造する資質や能力を身に付けたい人の入学をお待ちしています。



研究者教員 中村 好則